

# 県立しろやま支援学校と「学校間交流」

今回は、聴覚に障がいのある  
中学2・3年生4名の生徒との  
交流です。ですから、「コミュニ  
ケーションは手話、ジェスチャー  
が基本になります。  
やや緊張の面持ちの生徒会役  
員、いよいよ自己紹介です。文  
字（漢字）ごとに手話で示しま  
す。うまくできているか不安だ

共同製作の様子。コミュニケーションが  
盛んに交わされていました。



## 「共生社会」をめざして

本校は、県立しろやま支援学校と交  
流及び共同学習を年数回実施してい  
ます。これは、互いの個性を認め合っ  
ことで豊かな人間性や社会性を育む  
ことや、「共生社会※」の一員としての  
自覚をもつことを目的としています。  
先月29日（火）の第3回では、本校  
生徒会役員がしろやま支援学校の聴  
覚障がい教育部門を訪問しました。

つたと思いますが、相手のうな  
ずきを自信に変えて、手話を披  
露してくれました。  
学校見学の後は、給食をいた  
だきました。その際、話すこと  
が比較的できる生徒とは会話  
で、または紙に書く「筆談」で  
交流を深めました。昼休みには  
パリンピックの競技にもなっ  
ている「ボッチャ」で一喜一憂  
しました。

### 生徒会役員の感想より（抜粋）

- コミュニケーションに不安がありましたが、先生方のサポートや私の口元で理解してくれました。「ピー玉取って」がうまく伝わったとき、とても楽しくなりました。
- 小学校の時から知っている人もいたけど、他の人とも仲良くなれたのがうれしかったです。アートを作り上げたときもそれぞれの個性が出ていておもしろかったです。今度は手話で話せるように頑張ります。
- 耳が聞こえなくても、何も問題なく仲良くなれることができることが何よりもうれしかったです。また会う機会もあると思うので、そのときは自分から話に行けたらいいと思います。
- はじめはどう話したらいいのかなと思ったけど、紙に書いたり、体を使って表現したりして、協力しながら活動できてよかったです。
- 協力して何かをすることがとても楽しかった。手話を使って自分の気持ちを伝えることができた。この交流を今後生かしていきたい。
- 言葉で伝わらなくてもジェスチャーや手話、紙に書くなど伝える手段はたくさんあることが分かりました。これからは今回学んだ手話についてもっと知って、たくさん話してみようと思います。

※共生社会：すべての人が互いの人権や尊厳を大切にし、支え合い、誰もが生き生きとした人生を送ることができる社会。

午後は、講師に酒井美由紀先生をお招きし、共同製作を行いました。最初に、絵の具を付けたビー玉を大きな発砲スチロールの板の上で何回もみんなで転がします。不思議なデザイン画の完成です。次に名前（平仮名・漢字・ローマ字）から3つの文字を選び、色画用紙に写して大きく切り取りました。それをデザインとして組み合わせていくのです。途中、やり方を教えたたり、アイディアを称賛したりする場面も見られ、自然なコ



ミニコミュニケーションができていました。そのおかげで、素晴らしい作品が完成しました。  
難しいと思っていた交流——  
私たちの行動一つで、「壁」は壊せるのです。それを感じた学習でした。

【ご家庭から】ご感想をお待ちしております。学級担任にお渡しください。

年 組／お名前 (ペンネームでも O.K. ですよ！)

◆書いていただいた内容をこの通信で紹介してもよろしいですか？ ( ○ ・ × )